

県研究主題

「望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と豊かな人間関係をはぐくむ指導の充実と評価の工夫・改善」

提案1

提案者 多々納 真治（足柄上・足柄下地区）

<研究主題>

「一人ひとりがよさや可能性を發揮し、よりよく成長できる集団活動を目指して」
～指導と評価の工夫・改善と言語活動の充実を通して～

1 提案内容

(1) 児童の実態

自分の意見を積極的に発言するなど意欲的に取り組む児童も増えてきている。学級会の形態や進行についても次第に慣れてきて、基本的な進行ができるようになりつつある。しかし、論点がずれてしまうことや、自分の考えのみを主張してしまい、深まりのない話し合い活動になる場合が多く見られる。話し合い活動への参加意欲も児童によって差が見られる。

(2) テーマにせまるための具体的な手立て

①指導と評価の一体化

事前、本時、事後、それぞれに指導と評価を適切に行っていく。指導したことによって児童の言動がどのように変容したのかを観察し、十分満足できる場合には次の段階の指導を行う。そうでない場合は、個別に指導し、望ましい状況へと高めていく。このサイクルを続けていく。

②「話し合い活動」の充実のために

「話型」を生かして話し合うことで、自信をもって自分の考えを表現できるようにし、折り合いをつけることの大切さや集団決定できたことの喜びを実感できるようにする。

毎月企画係を発足し、自分たちで議題を選定し、役割分担をして学級会を進行できるようにする。自発的・自治的活動を大切にし、自主性を育てていく。

「学級活動ノート」を活用することで、議題や提案理由、話し合う内容を全員が理解できるようにする。そして、自信や意欲をもって学級会に臨めるようにする。

(3) 議題と本時展開

議題 学級の問題を解決しよう「クラス遊びがより楽しくなる方法を考えよう」

以前から問題として挙がっていた「クラス遊びでみんなが楽しめない」ことを取り上げた。

①クラス遊びがうまくいかない原因

②より楽しく遊びための工夫

について話し合った。最終的には多数決になってしまい、自分の意見が通らなかった児童にはフォローが必要だった。

学級会後のクラス遊びは、全員がルールを守り、充実した活動になったことが次の活動につながっていった。

2 協議内容

- ・学校に重点目標があるのがよい

Q 折り合いをつけること、多数決を取ることの経験は

A なかなか学校として系統的にできていないので、経験が少ない。すぐに多数決にいかずに、それぞれの意見のよさを見つけていけるようにした。意見をつなぎ合わせて折り合いをつけることを例示した。

- ・朝の会などでの小さい集団決定が、一時間の話し合いでの集団決定につながる
- ・相手の話をしっかり聞き、受け入れた後、自分の考えをもつようにすると折り合いをつけられるようになるのではないか
- ・少数意見を大切にすることを大切にしている。それが折り合いにつながるのではないか。
- ・教師の指導で大切なのは学級会の最後の助言。例えば提案理由にそった意見をほめる。

Q 年間計画の書式は何を参考にしたのか

A 「評価規準の作成」などだが、学校にあったものをつくらなければいけないと考えている。

Q 「学級活動ノート」などは学校全体で扱っているのか？

A 今は自分のクラスだけだが、全校に広めていきたいと考えている。代表委員会なども活用している。

Q 評価規準はおおまかなものなので、具体的にどのような姿、態度が見られた時に十分満足としているのか

A 事前にもっと具体的な評価規準をもっておくことが大切

Q 議題はどのように取り上げているのか

A 朝の会や帰りの会で、話し合ったほうがいいことを見つけていき、その中から議題を選んでいく

Q 話し合いのめあてとはどのようなものか

A 全員が参加しようというめあてをもてるようにしている。さらに話し合いごとに企画係がめあてを提案するようにしている

- ・このようなクラスにしたい、ということをもめあてにしてもいいのではないか

3 まとめ

学校全体としての取り組みとして近づけようとするのが大切。学校の課題をとらえ、重点目標、年間計画を設定することで、学校全体で取り組めるようになる。

活動状況を評価し、個に応じた指導をしてきた。目指すべき児童の姿を明確にしたことが、児童が意欲的に活動に取り組むことができた。結果だけでなく、課程を評価することも大切。指導と評価を継続して繰り返していきたい。

企画係を中心に活動を進めてきた。自治的活動は教師が児童に任せられる範囲をはっきりさせ、それ以外の場面は支援していく必要がある。

思いが強いと合意形成は難しくなる。大切なのはプロセス。自分の思いを語り、一人ひとりの思いを全員で共有していく経験を積んでいきたい。発達段階に応じて折り合いの仕方を教えていく必要がある。

<研究主題>

「豊かな人間関係を育み目標に向かって主体的に取り組む児童の育成」
～ペア学級との交流を通して～

1 提案内容

特別活動改訂の趣旨をふまえて授業の中に「ペア学級による異年齢集団活動」を取り入れ、さらに「言語活動の充実」を図っていくことで豊かな人間関係を育み目標に向けて主体的に取り組む児童を育成していきたいと考え研究主題を設定した。そして、「言語活動の充実により、互いに高め合うような豊かな人間関係がはぐくまれる。また、ペア学級による異年齢集団の活動を取り入れることで、主体的に取り組めるようになる。」という研究仮説を立て目標の明確化・言語活動の充実・評価の充実という3つの手立てをもとに研究主題に迫っていった。

(1) 授業実践 「6年生に向けて今できること」

学級活動 (2) ア 希望や目標を持って生きる態度の形成

最高学年への進級を前にして5年生の抱えている不安を解消し目標を持って過ごすことができるように5年生と6年生が小グループに分かれ、質問形式の活動を行った。授業を通して自分なりの解決方法を見つけ事後の活動としてめあてカードをもとに毎日の自分を振り返り、目標に向けて努力させた。

①授業に向けての手立て

事前・本時・事後の活動に対して、目標の明確化・言語活動の充実・評価の充実という手立てをとって活動を行った。

ア 目標の明確化

自分を見つめて考えを持たせ、グループや全体で話し合うことで問題を共有し、めあてを明確にさせた。また、粘り強く実践させるために「めあてカード」を活用。

イ 言語活動の充実 (自己決定を目的とする話し合い)

考えを認識させるためのアンケートを行い、話し合いを通して問題の共有化を図る。当日の活動に向けての準備。(カード作り・役割分担・お助けカード・リハーサル) 6年生への質問形式での話し合い、各グループでの報告を行って努力目標を自己決定する。振り返りカードに自分のめあてを書き、毎日振り返り自己評価を行う。

ウ 評価の充実

各種カードの活用と他者評価。質問紙法・振り返りカード・めあてカードによるみとりと他者評価(帰りの会で日直に対しその日の頑張りを伝える。)カードには教師の励ましの言葉を入れ意欲を持たせる。

②成果と課題

成果としては、目標の明確化、評価の充実、異学年の交流により、自己肯定感を高め主体的に取り組めるようになったこと。言語活動を充実させることにより、互いを尊重し認め合うような人間関係を育むことができたこと。課題としては、学校全体としての評価体制の構築、異学年の交流を学年や学校全体の活動としたいこと。

それには特活部での検討や年間計画の中への位置づけが必要である。

2 協議内容

ペア学級の活動や学級活動（２）の活動について質疑・応答・協議

- (1) 学級活動（２）についても集団活動は大切。事前から事後までの提案内容はとても参考になった。ア（希望や目標を持って生きる態度の育成）の内容で取り組まれたがウ（望ましい人間関係の形成）で行ってもよいのではないか。

子どもたちは、6年生に向けての自分の目標について言っていたので希望を持って6年に進級させたいと思い、アの活動として取り組んだ。6年生のスタンスも、5年生と話すことにより、自分を見つめたり、将来に向けての考えを深めたりする機会としてほしいと思い、アの活動と考えた。

- (2) 自己決定したことが適したものなのか。また、持続して努力していけるものなのか個に応じたものとなっているかをみとるのは難しい。限られた指導の時間を有効に使うために、めあての欄を大きくし、より具体的な目標が書けるようにして1回できちんとめあてを持ち達成した時の成長を感じ取れるものとするのが大切。カードはとても有効。中学校でも活かせる力をつけさせたい。事後の活動をみとるのは難しい。担任だけでなくクラブや、委員会活動の担当者など全教職員目で子どもたちをみとり育てていくのが大切。多角的な見方で良さを発見する。

- (3) 学級目標を大切にしている。より具体的な小さなめあてを設定し目標に向けて努力させている所は素晴らしい。道徳の学習と関連させ、学級活動で実践していくとよいと思う。6年生との話し合いについては先生の投げかけだったが、道徳の題材を使って授業をしていくとスムーズに6年生との話し合いにつながったと思う。

行事との関連は図ってきたが、道徳との関連は考えていなかった。今後の課題である。特別活動の全体計画の中に道徳との関連を入れていきたい。

- (4) 子どもに対する思い、温かさが伝わってきた。人間関係を大切にしている良さを感じた。一人一人の思いをくんで6年担任と連携を図って活動に取り組んだこともよい。朝の会、休み時間を使って自分の問題をクラス全体の問題として共有化を図るということを学んだ。

3 まとめ

- (1) この提案はどこを切り取っても参考になる。学級活動（２）であるが学級づくり全てに関わっている。学級経営そのものである。学級活動（２）は実践活動が一番大切。もちろん活動に入る前段階の自己決定も大切。自己決定するところだけでなくその先にある実践を常に見ていかなければならない。（２）の内容は6年間でみんな学ぶもの。日常指導でどのように指導したのかが問われる。日常の指導を補充深化したものが本時の指導になるので、前段階までの指導がどうなされていたのかがとても大切になってくる。

アンケートは子どもにとって説得力があるものなので、アンケートの文言を教師の意図に沿ったものになるよう考えることもできる。また、提案の中の抽出児童に視点を当てその子の変容をとらえることは大切。個の変容をみとることができる。さらに、全体としてはどうだったのかを見ることも大切である。また、事後の実践活動をどのように取り組んでいったのかをしっかりとらえたい。